

# ジュニア科学クラブ 3



## 光の三原色RGBのヒミツをさぐれ！

赤(R)緑(G)青(B)の光のくみあわせを「光の三原色」といいます。このたった3つの光をまぜるだけで、なんとどんな色でもつくることができます。そのヒミツは、じつはわたしたち人間の目が見るしくみにあります。

みなさんの目をつかって実験しましょう！



上羽 貴大(科学館学芸員)

### ■3月のクラブ■

3月17日(日) 9:45 ~ 11:30

- ◆集 合：プラネタリウムホール(地下一階)  
9:30~9:45の間に来てください  
入口で会員手帳を見せてください
- ◆もちもの：会員手帳・会員バッジ
- ◆内 容： 9:45~10:30 サイエンスショー一見学  
10:30~11:30 プラネタリウム見学

・とちゅうからは、入れません。ちこくしないように来てください。  
・プラネタリウムに入れる保護者の方は1名までです。

※最新の情報は、科学館公式ホームページ(<https://www.sci-museum.jp/>)をご覧ください。

ここから2ページはジュニア科学クラブ(小学校5・6年生を対象とした会員制)用です。



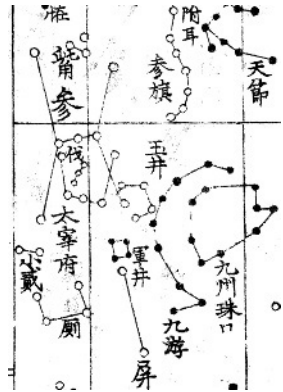
3月のプラネタリウム

## 星座のあれこれ

### 星と星をつないで作る星座

星と星をつないで形を作る星座は、今から5,000年前、メソポタミアで原形がつくられたといわれます。その後、長い年月をかけて形作られ、最終的に1922年に国際天文学連合という天文学者たちの会議で88の星座が決められ、いま世界中で使われています。

それ以前は、国によっては独自の星座を使っている場合もありました。実は日本も、江戸時代の終わりまでは、今とはまったく別の星座を使っていました。



江戸時代の星座図のオリオン座付近。

### 星座は永遠のもの？

何千年も前に作られた星座が今でも使われているので、その形はずっと同じで変わらないのだらうと思ってしまいます。しかし、何万年という長い時間スケールで見ると、星座の形は少しずつ変わっていくことが知られています。

今回のプラネタリウムでは、星座の歴史や、昔日本で使っていた星座についてお話しするとともに、プラネタリウム番組「見上げよう！ 未来の星空」を見て、星座の形が変わる理由を考えます。

かず つぐと(科学館学芸員)